



村上内科医院はJR山科駅から徒歩で10分ほどの所にある



がん治療の根本は、免疫力と抗酸化力 治療の柱は超高濃度ビタミンC点滴療法

がんになる大きな要因として仕事や人間関係からくる「精神的ストレス」がよく指摘される。村上院長はこれに加えて「酸化ストレスにも気を付けてほしい」と呼びかける。

酸化ストレスというのは、体の中で酸化が進み、体のサビが過剰になっている状態を指すと村上院長は説明する。老化やしみ・しわ、心筋梗塞、脳梗塞、がんなどの原因がこの酸化ストレスだといわれているのだ。

「体の酸化の原因は、主に紫外線、たばこ、アルコール、食品添加物、精神的ストレスといったものが挙げられます。これらに気を付けて体の酸化を防ぎ、がんをはじめとした病気のリスクを回避して欲しいと思います」

身体の酸化を防ぐ対策として村上院長は、「抗酸化物質を摂ることで積極的に酸化を抑えることが可能です。ビタミンC・E、リポ酸、CoQ10、グルタチオンといったサプリメントがこれにあたります。ただ個々の体質や状態に合わせた摂取が必要なので、必ず専門医の指導を受けてください」とアドバイスする。

「日光によくあたって育った野菜ほど抗酸化物質を多く含んでいますので、青々とした新鮮な野菜を食べることもお勧めです」と付け加える。

「免疫力と抗酸化力」。全てこの観点からがんの患者をサポートする村上院長は、「私の医院で行うがんの治療はもちろん、免疫力を高めて抗酸化力を身につける治療です」と明快に語る。

村上院長のがん治療の柱のひとつに超高濃度ビタミンC点滴療法がある。もともとアメリカ生まれの治療法で1975年から始まったといわれている。

2005年にはアメリカ国立健康研究所、国立がん研究所、国立食品医薬品局の科学者達が共同で「高濃度のビタミンCはがん細胞を殺す」という発表を行った。その後、普及は進み、今ではアメリカを中心に多くの医師が高濃度ビタミンC療法を取り入れたがん治療を行っている。

この治療法は、具体的にはビタミンCが酸化して発生する過酸化水素ががん細胞を殺すという仕組みだ。「ビタミンC点滴が重宝されるのは、正常な細胞には全く傷をつけず、がん細胞にだけ攻撃してくれるからです」

村上院長は「正常な細胞には大量の過酸化水素を除去できる能力があるためです」と説明する。

通常の抗がん剤と大きく異なり、がん細胞だけを攻撃できるため、副作用の心配がなくがん治療を行えるというわけだ。

「高濃度ビタミンCは副作用の苦しみを味わうことなく、がんの治療を続けられる画期的な治療法です。患者さんのQOL（生活の質）も保つことができる上に、食欲増進や痛み軽減、気力や体力も増して元気になるなど、様々なメリットもあります。抗がん剤や放射線治療といったがんの標準治療の効果も底上げすることができ、本当に優れた治療法です」